

# 育世子屋NEWS

2020.6.1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## やり切るまで手を離すな

たいていの人は、まだ序の口でいよいよこれからが本番というときに、自分の田んぼを放置して、人の田んぼの雑草を取りたがるのです。人の田んぼの雑草を取るというのなら、まだいい方かもしれません。一番多いのは、人が懸命に草を取っている姿を傍観して、その取り方がいいとか悪いとか、批判ばかりしている人です。

「隣の芝生は青く見える」ということわざがありますが、このことわざには、他人の良いところは目に入りやすい一方で、自分に目を向けると嫌なところが目立つという人間の心理が込められています。

これは人に対してだけではなく、「物事」や「取り組み方」にも言えることです。

たいていの人はなかなか結果が出ないと、「自分には向いていない」「やり方が悪いんだ」と思い、他の人が取り組んでいることや、他の人のやり方が良く思えてきます。そして十分な努力をやり切る前に、取り組み内容や方法を変えてしまうのです。

当然のことながら、楽をして短期間で大きな結果を出せる 魔法など存在しません。

結局新しく取り組んでもまた他のことが気になって、十分な努力をやり切る前に取り組み内容ややり方を変える・・・ということを繰り返していると、満足な結果にたどり着く日は永遠にやってこないのです。

恐らく何事も、やり方にはそこまでの大きな差は無いのだと思いますし、他の人のうまくいったやり方が自分にもうまくいく方法かどうかは分かりません。**結局はどれだけ腰を据えて、覚悟をもってそのことに取り組み続けることができるかどうか**が大事なのだと思います。(たとえ正しいやり方で取り組んでいても、結果が出るようになるまでは時間がかかるものです)

人と比べるとどうしても正しい判断ができなくなってしまうので、あくまで比較対象は

「過去の自分」にするのが良いと思います。このやり方で失敗したから、次はこうしよう・・・と過去の自分に対して改善を繰り返していけば、そのうち「自分にとって一番効率の良い方法」を見つけ出すことができます。

## この世の恩に報いる

昨日も食事をして、着られるものを着て、屋根の下ですら簡単に眠ることができたなら、今まで自分の身に起こった出来事をひとつ思い出し、心から感謝することです。

今は世界中が前例のない危機に陥っています。子供たちも長い間学校に通えない状態が続き、このような時にはじめて「当たり前は、ありがたいことなんだ」と気づいている方も多いのではないのでしょうか。

「当たり前はありがたい」ということは、このように悪い状況に立たされた時や大切なものを失った時にしか感じにくいと思います。特に今は物やサービスが溢れかえっている時代なので、人の欲はとどまることを知りません。つまり基本的に「満足」はできないのです。

日ごろからこの気持ちを持って生活することができれば、すなわち「**足るを知る※**」ことができれば、少しでも豊かな精神状態で人生を送れるようになるのです。

### ※「足るを知る」

- ・ ・ 中国の思想家、老子の言葉。ないものや不足しているものに注目するのではなく、足りているもの、すでにあるものに注目するという意味で、「既に十分満足であることを知りましょう」と伝える言葉です。

## 流れを変えるのは自分の行動

幸運とか不運というものは、天から無差別に降ってくるものではなく、すべて自分の方から求めているものなのです。そのことを思い出すことができれば、他人のせいにしたり、組織の在り方に腹を立てたりすることなく「自分の行動を変えよう」という発想に行き着くことができるはずですよ。

誰しも今の自分を取り巻く環境や状況に対して、大なり小なり不満があると思います。しかしそれに対し不平不満を口にしているだけでは何ら解決には向かいません。

日頃子供たちを指導していて、伸びる子とそうでない子の差は「**素直さ**」が大きく関係しているように感じます。

例えばこちらが指導や注意をした際に「はいっ！」と素直に返事をして、言われた通りに行動できる子は、それが身に付きどんどん成長できます。自分でも成長を感じることができるので、どんどん人のアドバイスに耳を傾けるようになり、さらに成長を続けていきます。

逆にこちらが指導した際に素直な「はいっ！」が言えなかったり、「でもな〜」「だってな〜」と言い訳をしている子は、その時点で成長できるチャンスを逃しています。

この素直さの差が積み重なることで、個人の成長の差がどんどん大きくなります。

**子どもたちにいちばん大切なのは「はいっ！」の返事です。**ご家庭でこの返事がちゃんとできていないと、外でもできていない可能性が高いのです。家族間の会話はいい加減になってしまいがちですが、再度ご家庭でも返事の徹底をお願いしたいと思います。

## すぐに育つものはない

「人を育てなさい」ということは、「一晩で別人のように育てなさい」ということではありません。思いやりと一貫性のある正しい態度を、沐浴のようにじっくりと浴びせ、染みついてきたものが自然と流れ落ちていくのを待ちましょう。そして本人も気づかないうちに、悪いものから遠ざかり、良いものへと移っていく、その様子を近くで見守り続ける。できることは、ただそれだけです。

テストの点数や通知表など、数字で表すことのできる能力を「**認知能力**」と言います。この部分は一夜漬けや対策講座で、その子の実際の能力以上の結果を出させることはさほど難しくありません。（これまでの時代では、この認知能力が重要視されてきました）

しかしこれからの AI が普及する誰も経験したことのない時代には、数字で表すことのできない能力「**非認知能力**」が重要であると言われていきます。

この非認知能力は簡単に言えば人間として生きていくための力であり、具体的には

『目標に向かって最後まで頑張る力』・・忍耐力・自己抑制・目標への情熱など

『他の人とうまく関わる力』・・社交性・敬意・思いやりなど

『感情をコントロールする力』・・自尊心・楽観性・自信など

が挙げられます。ただ、これらの能力は一朝一夕で身につくものではありません。それこそ数字で表すことができないので、親にとっても子供の非認知能力がどれだけ成長しているのかが分かりにくいのです。

**重要なのは「すぐに結果を求めすぎないこと」です。**

親や指導者がすぐに結果を求めると、子は地道に目標に向かって最後まで頑張ることができなくなります。今よりもその先を信じ、気長に待つしかないのです。

そして、子供は口で言い聞かせても聞きません。結局は**環境**でしか育たないのです。ご家庭やわれわれ指導者など、子供が接する大人が上記の非認知能力を伸ばしてあげられるような心がけ、声掛けをいかにしてあげられるかが重要だと考えています。